

短答管理理解き方セミナー（2023年12月短答向け）

1. 出題実績などの確認－短答対策講義(上級11回目)の抜粋－

※他にも分野ごとの難易度などもあるので、再度見てみてください。

5. 目標点, 平均得点比率および総合合格ライン

(単位：点, %)

	R 元		R 2		R 3	R 4	
	I	II	I	II	—	I	II
目標点 ^{*1}	50.5	59	62	77	55.5	72.5	77.5
平均得点比率 ^{*2}	44.1	37.4	34.5	46	40.9	47.1	48.7
総合合格ライン ^{*2}	63	63	57	64	62	68	73

6. 配点

(単位：点)

	R 元				R 2				R 3		R 4			
	I		II		I		II		—		I		II	
	計算	理論	計算	理論	計算	理論	計算	理論	計算	理論	計算	理論	計算	理論
原価計算編	30	20	30	20	30	20	30	20	30	20	30	20	30	20
管理会計編	30	20	30	20	30	20	30	20	30	20	30	20	30	20
合計	60	40	60	40	60	40	60	40	60	40	60	40	60	40

7. 問題数

(単位：問題数)

	R 元				R 2				R 3		R 4			
	I		II		I		II		—		I		II	
	計算	理論	計算	理論	計算	理論	計算	理論	計算	理論	計算	理論	計算	理論
原価計算編	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
管理会計編	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
合計	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8

*1 目標点は〈A：目標正答率100%，B：目標正答率50%，C：目標正答率0％〉として計算している。

なお、この目標点は個々の問題ごとに難易度（A～C）を判定し、全員正解を加えて合計したものである。本試験の緊張感等

を考慮すれば、実際の目標点は－1問分程度になるものと推測される。

*2 公認会計士・監査審査会の公表結果に基づいている。

8. 問題数(難易度別)

(単位: 問題数)

		R 元				R 2				R 3		R 4			
		I		II		I		II		—		I		II	
		計算	理論	計算	理論	計算	理論	計算	理論	計算	理論	計算	理論	計算	理論
原価計算編	A	1	4	1	3	2	3	2	4	2	2	2	4	3	3
	B	1		1	1	2	1	2		1		2			
	C	2		2						1	1				1
管理会計編	A	1	1	1	1	1	2	2	1		3	1	4	2	3
	B		3	3	3		2	2	1	2		1			1
	C	3				3			1	2	1	2		2	
合計	A	2	5	2	4	3	5	4	5	2	5	3	8	5	6
	B	1	3	4	4	2	3	4	1	3		3			1
	C	5		2		3			1	3	2	2		2	1

2. 問題を解く順番について

「理論→計算A→計算B」がおすすめです。

- ・理論: あまり時間制限を設けないほうがいいが, 1問2分がMaxなのは。1問1答だと思って解きましょう。
- ・計算A: 基本的には1問5分くらいで解けるもの。意外に少ない。
- ・計算B: 1問10分以内くらいで解けるもの。計算量が多くてBの場合と, 論点が難しくてBの2通りある。
- ・計算C: なるべく触れない。なるべく時間をかけない。

※ 計算ミスの減らし方については, 下書きの工夫, 問題を読むときの工夫で乗り越えましょう。

→ 読み飛ばしなどが多い方は, もしかしたら根本的に論点の内容についてしっかりと理解できていないのかも。

3. 計算問題の取捨選択の仕方

取捨選択のポイントは問題を下記の視点から確認することです。また、必ず、選択肢まで含めて一度問題を読んで何が問われているのかを確認してから解き始めましょう。

- ① 資料の量
 - ② 計算の量
 - ③ 論点の難易度

① 資料の量

計算問題を解くのに必要な資料がどれくらいの量があるのかをチェックしてください。

- ・ ページ数
- ・ 与えられているデータの数 など

② 計算の量

計算量の多い問題は、解答に時間がかかるだけでなく、計算ミスをしてしまうリスクがあります。

- ・ 製品の数や、部門の数
- ・ 問われている点がどれくらいあるのか など

③ 論点の難易度

同じ論点を聞いている問題でも、問われ方によっては難易度が大きく異なります。

- ・ 複数基準配賦法なのか単一基準配賦法なのか
- ・ 総合原価計算で論点が満載になっていないか
- ・ 最適SMの問題で回避可能個別固定費がないか
- ・ 場合分けの指示があるか など

※ できる限り、能動的に解くことができるようにしていきましょう。「能動的に解く」とは、自分で必要な資料を探して問題を解けている状況です。資料に翻弄されないよう目的を持って資料扱えるようになっていきましょう。

4. 今後の勉強方針について

【全体的に(他科目でもぜひ)】

- (1) 答練で出題された問題はしっかりと復習しておきましょう(CはやれなくてもOK。)。毎年、答練で出題された問題が本試験出てます。なお、中途半端復習は本当にやめたほうがいい。
- (2) 答練やアクセスで出題された理論問題は、テキストにシールを貼るなどして対応するとよいです。また、知らない知識はテキストに多少書き込むのもおすすめです。ただし、脈絡のないメモは後で読んでわからなくなってしまうことがあるので注意。テキストを読むだけで、答練の復習ができます。久しぶりに答練解きなおしたら、満点になるはずですよ？
- (3) 答練で一喜一憂しない。点数を目標にしないで、目標点を取れるかを確認しましょう。また、勉強が進んでいなかったりという場合もあると思います。その場合は、ここまでの範囲なら絶対に大丈夫。他はやってないし間違えてもOK。とテーマを持って問題に取り組みましょう。
- (4) 答練の復習時は、自分のこれまでの勉強も反省してみましょう。「なんで、ここができなかった？テキスト読んでたんじゃないの？」

【理論】

(1) 原価計算分野

とにかく「原価計算基準」を"使える"ようになりましょう。近年の本試験では、「原価計算基準」を使って判断できますか？という問題が出題されています。また、純粋に基準の抜き出しだけでなく、関連した内容をつなぎ合わせて新しい文章を作り出すこともあります。実際、実務でも「原価計算基準」使いますので、より実務的な部分が聞かれていると思っておきましょう。

- ① 「原価計算基準」を毎回テーマをもって読みましょう。前から順に読むのではなく、「今日は費目別計算をしっかりと。」のほうがいいです。出題も分野ごとに出来ます。
- ② 「原価計算基準」を読んでいる中で、関連した内容が他にもあったな。と思ったらすぐに探しに行きましょう。前から一方向で読むのではなく、色んな順番で基準を読み、理解ができていると、とっても良い状態です。最近だと検索機能などもあると思いますので、単語でまとめてみるなどでもいいのでは？
- ③ 「原価計算基準」を丸暗記する必要はありません。覚えなといけないのは、よくひっかけられる部分です。『「原価計算基準」と短答式本試験』の冊子などで分析してみましょう。
- ④ 「原価計算基準」の内容をしっかりと理解および原価計算論の全体の流れの中で押さえておきましょう。そのためには、やっぱりテキストの読み込みがとても大事です。原価計算分野も読みましょう。

(2) 管理会計分野

よく質問受けますが、テキスト読み込んでますか？テキストです。テキスト。本当にテキスト。お願いします。管理会計の問題は、正直、テキストに載っていないような内容や、テキストの記載している内容をベースに考えて解答する問題がちよくちよく出ます。前者は解けなくてもよいですが、後者は解けるようになっていただきたいです。そのため、管理会計分野については、より正確にテキストを理解し覚えておく必要が原価計算分野よりもありますね。

- ① テキストをしっかりと読み込みましょう。理論で出る範囲というのは意外に少ないものです。コスパは悪くないかと。
- ② 答練で知らないよという問題が出るとはありますが、知らない問題に対応する練習&試験委員対策になりますので、余裕があれば追加でおさえおいてください(あくまで余裕があればです。)。解けなくてもしょうがないので、気にしないように。。

【計算】

計算を解いていくプロセスは下記の通りかと思います。自分がどのフェーズの理解ができていないのか、意識して勉強していくと良いかと思います。

- ・問題を読み、何について問われているのか確認する。
↓ … (1)
- ・テキストの内容を思い出して、必要な情報を検討する。
↓ … (2)
- ・テキストの内容を問題に当てはめる。

(1) 問題からテキストの内容を思い出せない

テキストの内容がまだまだ頭の中に入っていない可能性が高いです。「テキストを読む」と言いますが、言葉通り読んでいるだけでは足りません。本試験ではテキストがない状態でテキストを思い出せる必要があります。そのため、「読む」だけではなく、「思い出せるか」というところまで確認しておきましょう。

- ① テキストを読み終わったら、読んだ内容が思い出せるか、1日の終わり、翌日、翌週と復習してみてください。テキストを読んだ当日に思い出せなければ、試験会場で思い出せることはないです。
- ② トレーニングの問題などを解くのではなく、トレーニングの問題文を読むことでテキストの内容を思い出すということをやってもいいかもしれません。いわゆる連想ゲームみたいなものですね。「複数基準配賦法」という言葉から、どこまでのことを思い出せますか？

(2) テキストの内容を問題に当てはめることができない

問題の演習量が足りていない可能性が高いです。もしくは、問題を解く際に行き当たりばったりで解いてしまっている可能性も考えられます。アクセス、トレーニングを解く際から当てはめて解くということを意識してやってみましょう。

5. おわりに

管理は特にメンタル勝負です。落ち着いて、解かなければいけないものを、解いていきましょう。試験を受けている間は、自分はできる人だと思って取り組むといいです。簡単そうに見えるけど……。私が解けないならみんな解けないだろう。と。解なしもほぼ毎回出てしまっているわけですし。。。

皆さまの短答式試験がより良い結果に終わることを心から祈っております！